

# 八万小学校 「学力向上実行プラン」

## 研究テーマ

- ①「主体的に学習する力を伸ばす、『聞く力・聞き合う力』の育成」
- ②「学習規律と家庭学習習慣の確立」

## 学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 福原 由美子  
委員 校長 中江英生 教頭 仁木茂雄 教頭 黒田博章 1年主任 片山紀子 2年主任 中本裕美 3年主任 榎本久美 4年主任 橋本禎子 5年主任 新居善江 6年主任 矢木麻由美 特別支援主任 笹田みすえ

校長

中江 英生



### (1) 基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 国語の漢字や算数の計算の基礎的・基本的な力が身に付いている児童が多い。 課題を解決しようとする意欲は高い。	①学習活動を支える読み・書き・計算などの基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。 ②目的に応じて文章を読んだり、要旨をまとめて書いたりできる。	「漢字の読み書きや計算ができる」と答える児童の割合を80%以上	現在の取組の継続に加え、漢字の読み書きや計算の基礎・基本を定着させる。授業では、めあての掲示、学習のふり返りをより確実に行う。	①朝の「パワーアップタイム」で、計算・漢字・読書の時間を全校で設定し、基礎学力の定着を図った。 ②授業では、「めあて一課題解決一まとめ一ふり返り」を確実に、ノート指導やノート点検を定期的に行った。	・「算数の勉強が好き」と答えた児童が4.2%増えた。 ・「国語の授業がよくわかる」と答えた児童が1.9%増えた。 ・「漢字の読み書きや計算ができる」と答えた児童が86%で、成果指標を達成した。
課 題 学力の二極化傾向が見られる。 読書体験の不足により語彙数が少なく、文章を読み取る力や書く力に課題がある。	①漢字や計算の確認テストを継続的に実施する。授業ノートのまとめ方を指導する。 ②読書や読み聞かせの時間を計画的に設定する。 ③各教科の指導において、めあての提示・学習のふり返りを確実に、授業の中に取り入れる。	①-1単元ごとに漢字や計算の小テストを実施 ①-2一週間ごとに全員のノート点検 ②木曜日の朝の学習の時間に読書を実施 ③授業のねらいを明確にし、指導と評価の一体化を図る。		評価 A ①朝の「パワーアップタイム」の内容をさらに充実させる。 ②授業では、「めあて一課題解決一まとめ一ふり返り」の形態を継続するとともに、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導方法について研究し実践する。	次年度における改善事項

### (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 課題解決に必要な様々な情報を収集したり、考えたことを多様な方法で表現したりする力を身につけている。今まで学習してきたことをもとに、次の課題を考えることができる。	①要旨を捉え自分の考えと比較しながら、話を聞くことができる。 ②根拠や理由を明らかにして、相手に分かりやすく自分の考えや思いを伝えることができる。	「先生や友達の話が聞くことができる」「自分の意見や考えをきちんと言うことができる」と答える児童の割合を80%以上	[話す][聞く]スキルを授業の中で活用し、聞き合う態度の育成を図る。引き続き、ペア学習やグループ学習でホワイトボード等を積極的に活用し、言語活動や学びを深める。	①[話す][聞く]スキルを授業の中で活用し、聞き合う態度の育成を図った。 ②ペア学習やグループ学習でホワイトボード等を積極的に活用し、言語活動や学びを深めた。	・「先生や友達の話が聞くことができる」と答えた児童は、89.6%で成果指標を達成したが、「自分の意見や考えをいうことができる」と答えた児童は73.1%で達成できなかった。
課 題 「自分の考えと比べながら聞く力」「意見を聞いて話し合う力」に課題がある。	①ペア学習やグループ学習を積極的に行い、話す・聞く言語活動や学びを深める場面を設定する。 ②ホワイトボード等を活用し、意見を出し、まとめる活動を授業の中に取り入れる。	①グループや学級全体で自分の考えを発表する機会を一週間に1回以上設定 ②学期に1回必ず「深い学び」の授業を実践する。		評価 B ①「話す」「聞く」スキルを効果的に活用する。 ②ペア学習やグループ学習の効果的な使い方や、ホワイトボード等の活用方法について研修し、実践する。 ③授業実践では、児童が自分の考えの根拠をもとに発表できる場の設定を心掛ける。	次年度における改善事項

### (3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(目指す子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よ さ 言われたことには、まじめに取り組む。	主体的に学習に取り組み、目標に向かって進んで学習したり活動したりできる。	①「授業中がんばって勉強している」と答える児童の割合を85%以上 ②「家庭学習ができていいる」と答える児童の割合を85%以上	教師と児童、児童同士の温かい人間関係づくりに努める。家庭学習時間チェックを引き続き行い、目標達成できるようにする。学習意欲を高める活動を児童が主体的に話し合い、全校児童に啓発する。	①よい姿勢・学習用具の準備・チャイムを守る等の学習規律の徹底を全校で取り組む。 ②家庭学習時間チェックを毎月行い、9月と1月を家庭学習充実月間として、達成者に賞状を渡す。	・「授業中がんばって勉強している」と答えた児童が85.1%で成果目標を達成した。 ・「家庭学習ができていいる」と答えた児童が89.1%で、成果目標を達成した。
課 題 自主的な学習習慣や態度が身に付いていない。家庭学習の習慣はついてきているが、内容や学習時間に課題がある。	①集中して授業に参加できるように学習ルールを徹底する。 ②「家庭学習の手引き」の作成し、学年便りや懇談等で家庭への啓発を行う。 ③家庭学習時間チェック表をつけることで、学年の目標が達成できるようにする。	①毎回の授業の中での児童の模範となる態度や活動をこまめに称賛 ②年間を通じ継続し、活用する手立てを行う。 ③学ぶ姿勢や有効な学習方法について家庭への啓発を図りながら、児童に継続的に指導する。		評価 A ①児童の実態に応じて、学習規律の改善点を共通理解し、全校で改善策に取り組む。 ②学年ごとに「家庭学習の手引き」を作成し、さらに充実を図る。 ③家庭への啓発の仕方を学年により工夫し、改善を試みる。	次年度における改善事項

## 平成29年度 学力向上ロードマップ

